

明神 太郎 さん テスト分析レポート

中学3年生

国語

2017年5月 1学期中間テスト

64 / 100点

得点率

64%

学校の採点区分 書く 8/16 読む 36/58 言語 20/26

目 全体所見

今回の国語（1学期中間テスト）は64/100点でした。内訳は、漢字・語句を問う「言語」が20/26点、文章を読み取る「読む」が36/58点、記述式の「書く」が8/16点です。大問六の漢字18問はほぼ全問正解しており、覚えて答える設問での取りこぼしはほとんどありません。読解も、記号で答える設問を中心に着実に得点できています。一方で「書く」は、4問すべてで部分点は得ているものの、満点に届いた設問がひとつもなく、得点率がちょうど半分にとどまりました。白紙で出した設問はひとつもありません。書けていないのではなく、書いた答えがあと一歩で満点に届いていない——これが今回の中心的な課題です。

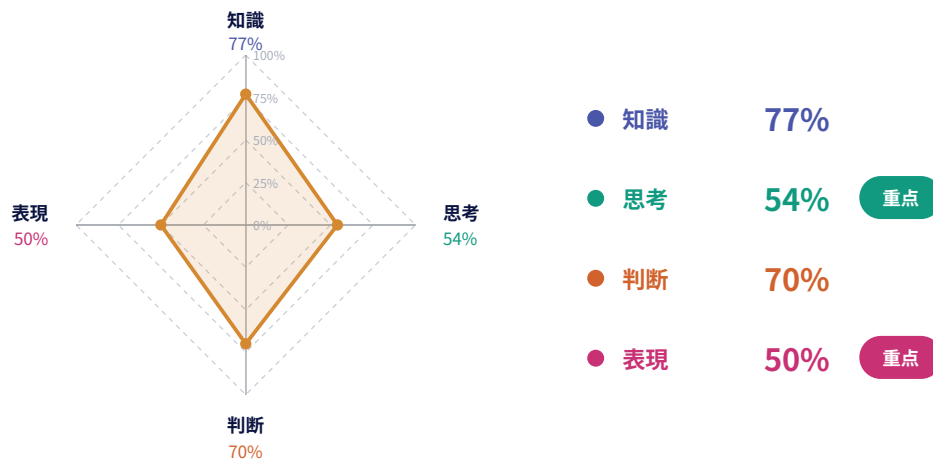
📊 答案から見た傾向

- 01 大問六の漢字18問（読み8問・書き10問）はほぼ全問正解、大問五の慣用句・四字熟語も安定しています。言語分野で20/26点を確保できており、今回いちばんの土台になっています。
- 02 記号で答える設問は、三つの長文すべてで正答が目立ちます。本文の内容や筆者の主張そのものは、正確につかめています。
- 03 【書く力】の記述4問（大問一9・大問二3と7・大問三6）は、いずれも部分点にとどまり合計8/16点でした。無解答はゼロで、どの設問も答えの方向は本文に沿っています。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間テスト（国語）

4観点の得点率

「重点」の2観点を下段で解説しています



観点別アドバイス

表現 今回の重点

記述4問すべてで部分点は取れていますが、満点に届いた設問がありませんでした。8/16点というのは、答えの方向は合っているのに、あと一言が足りていない状態を示しています。書いたあとに「設問の条件（字数・語尾・使う語）を満たしているか」を指差しで確認する。この一手間を毎回はさむところから始めます。

思考 今回の重点

記号選択（判断70%）に比べて、本文から指定字数で抜き出す設問や内容をまとめる設問（思考54%）が伸びていません。選べるのに、自分で範囲を切り出すと精度が落ちる形です。抜き出しは「指定字数を先に指で数え、その長さに合う部分だけを探す」順番に変えると、候補が一気に絞れます。

学習アドバイス

全体として64点。漢字・語句の「知識」が77%、記号選択の「判断」が70%と、答えが一つに定まる設問では安定して得点できています。一方、自分で言葉を切り出す「思考」が54%、自分で言葉を組み立てる「表現」が50%と、手を動かして書く設問になると得点率がはっきり下がります。四つの観点は、答えが「与えられている」ものから「自分で作る」ものへ向かうほど、きれいに数字が落ちていきました。読む力が足りないのではなく、読み取ったものを答案の形にする工程が弱い——次のページで、その中身を具体的に見ていきます。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間テスト（国語）



つまずきの深掘り分析

得点ではなく、「なぜそう答えたのか」を答案の痕跡から読み解いています。



誤答パターンの原因分析

模範解答と照らし合わせると、失点は三つのパターンに分けられました。最も大きいのが、記述問題での「部分点止まり」です。【書く力】の4問は8/16点。注目すべきは、0点の設問も白紙もひとつもないことです。どの設問も本文に沿った内容を書けていて、そのうえで満点に届いていません。採点者が求める最後の一要素——理由の言い切り、指定語の使用、字数の充足——が、毎回ひとつずつ欠けている形です。二つ目は本文からの抜き出しで、「四字で」「二十三文字で探し初めの五文字を」といった字数指定のある設問で、意味の近い別の箇所を選んで見られました。三つ目は詩の表現技法で、技法の名前は答えられていて、その先の「効果」を言葉にするところで止まっています。三つに共通するのは、いずれも「あと一歩先」で止まっていることです。



根本的なつまずき

観点別の数字が、原因をそのまま示しています。知識77%、記号選択の判断70%、自分で切り出す思考54%、記述の表現50%。答えが「そこにある」設問から「自分で作る」設問へ進むにつれ、得点率が階段状に下がっています。つまずきの正体は読解力ではありません。本文は正しく読めており、正解も見えています。それを答案の形にして外に出す最後の工程で、毎回ひとつ手順が抜け落ちるのです。記述4問すべてが部分点だった事実が、この見立てを裏づけています。毎回「惜しい」ところで止まるのは、書き終えたあとの確認が習慣になっていないためです。



前提知識の欠落

記述問題を解くときの「型」が、まだ身についていません。設問の語尾に答えの語尾を合わせる、指定字数を先に数えてから本文を探す、指定語は必ず答案に入れる。これらは知識というより作業手順で、繰り返した回数だけ身につきます。今回は「『事前』という語を使い『～こと』に続くように」など条件指定の多い構成で、型の有無が得点差に直結しました。夏の学習は、この手順の確認から始めます。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間テスト（国語）

| 学習メニュー

上から優先度の順に並んでいます

1 書いたあとに「条件」を指差し確認

15分 / 回

記述問題を1日1問。書き終えたら、設問に戻って「字数」「語尾」「使う語」の三つを指で押さえながら確認します。今回の記述は4問すべて部分点でしたので、この確認だけで半分は満点に変わる見込みです。

記述の条件確認

表現

2 模範解答と自分の答案を並べて差分を取る

20分 / 回

週3問。解いたあと模範解答と並べ、「自分の答案に無かった言葉」だけを赤で書き足します。今回のように部分点が続くときは、この差分こそが伸びしろそのものです。

記述の基本型

表現

3 抜き出しは字数を数えてから探す

15分 / 回

抜き出し問題を週2回。「四字」「五字」「二十三文字」などの指定を先に指で数え、その長さに合う箇所だけを本文から探します。意味から先に探すのは禁止です。

抜き出し

思考

| 学習アドバイス

今回の課題は読解力ではなく、答えの整え方にあります。そのため夏の学習は、新しい文章を多く読むことよりも「書き終えたあとの手順を体に入れる」ことに時間を配分します。上のメニューは優先度順で、どれも1日10～15分。量より回数がものを言う練習です。時間が取れない日は1番だけでも十分です。



太郎さんへ

漢字はほぼ完璧、記述も4問すべてで自分の言葉を書き切っていました。白紙がひとつも無かったことが、いちばんの強みです。あとは書き終えたあとに設問へ戻って確認するだけ。その一手間を、一緒に習慣にしていきましょう。